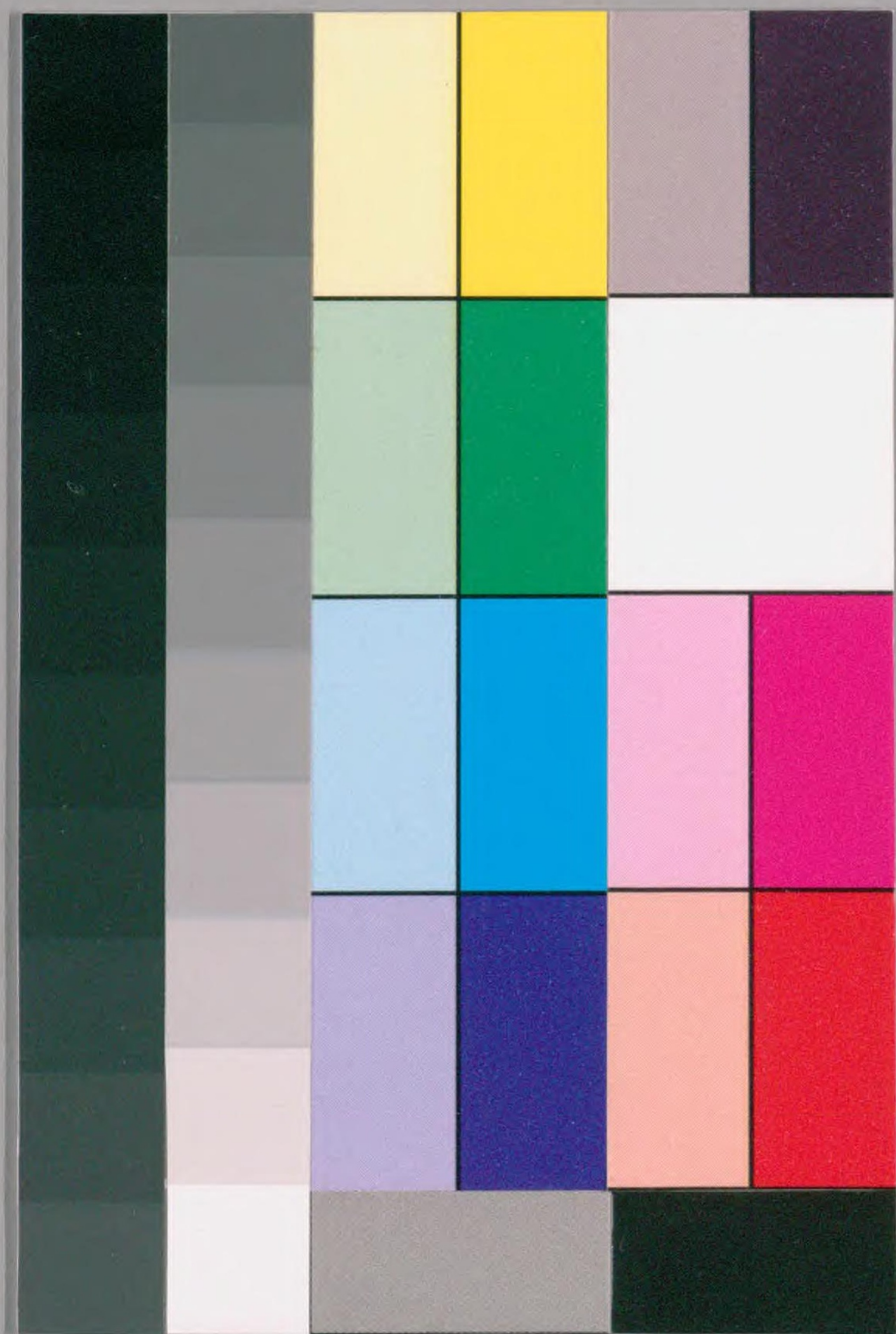




特  
251

増補花壇大全

杭 梨子 揚  
二上



国立国会図書館

タイトル『増補花壇大全 6巻』 請求記号 特1-2510

ガラス使用

○増補梅桃梨の歌

ひめぢりま

白屋梅

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

神楽梅

あまのつばき

あまのつばき

櫻梅

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

あまのつばき

下二

下二

特1  
2510

源平あやんぼう あを葉の  
はらうりて

あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

源平あやんぼう あを葉の  
はらうりて  
あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

寒梨 あを葉の  
はらうりて

あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

○梅桃の歌

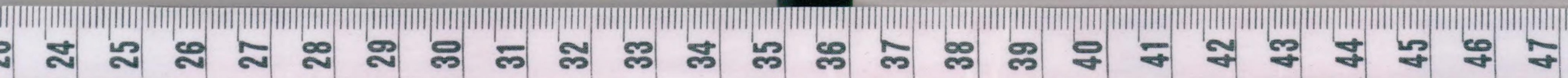
あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

あやんぼうのあやうくはる  
ゆき八重雪よあうくはる  
もさくおのの梅ちがひ  
あさくおのちがひもさく  
さくおの梅もあさくはる  
のはちがひも

尾浦(二)

尾浦(二)







○陽補櫻竹枝

十枝

や揚草 あんとさうさう 芳まき紅飛花  
花の色はさくらうらりお  
りりありてあんのり  
うきうき 二月は早く

源氏様系 げんじさま 花の  
はくうまよやうり  
おびらありくおま  
もはくうきりり  
むのきうはまはし  
おきりりのむきめ  
花のまよりのせやく  
をけりてなり二お  
海あり

暖分櫻草 ぬるまけ 花ははま  
あつてさなけさ  
のくく海あり

二月は早く

海あり

夏ふし夏櫻系

花はなのつぼみ

さくらさくらぶらぐらぐらと  
もものおとこはは極さ  
あつううハ極ハ極  
裏のこおとこへうは  
アては二三月あを  
の系けい花ハるの極め  
うくもるうう二存  
ふむさくぢり

南条小櫻

花はなのつぼみ  
小アハ

紅腫へぶ櫻系

花はなのつぼみ  
極さあハ

つぼみつぼみてあをさして極  
あつううこせくと極  
もの腫はれさくのがびと腫  
ざうはは極二三月  
二存さく

紅霞へばら櫻系

花はなのつぼみ  
極さあハ

裏ハあをさくうの  
おとこへうはりて  
さうさあハるあ  
二存さく



東小櫻

花はなのつぼみ  
極さあハ

花はなのつぼみ  
あつううは  
おんあうはて  
あつううは  
あつううは

あつううは  
あつううは  
あつううは  
あつううは

彌馬やま櫻竹

花はなのつぼみ

あつううは  
あつううは  
あつううは  
あつううは  
あつううは  
あつううは

濃系のう櫻草

花はなのつぼみ  
極さあハ

あつううは  
あつううは  
あつううは  
あつううは

○櫻系はな終

二存

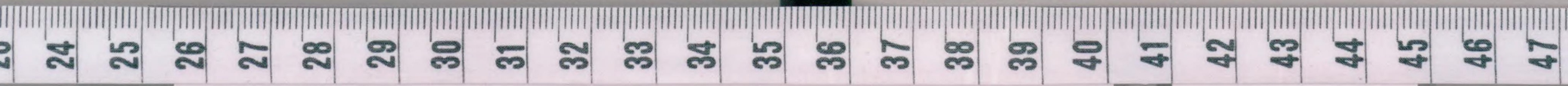
二存





源氏

八重



後黄蓮  
竹



○草花心形圖

八重後黄  
蓮

系揚菱花



小東  
櫻





花  
葉  
の  
形  
は  
さ  
ま  
ま  
な  
り  
な  
り

大  
葉  
の  
形

又  
も  
さ  
ま  
ま  
な  
り

（増補）



花  
の  
形  
は  
さ  
ま  
ま  
な  
り

花  
の  
形  
は  
さ  
ま  
ま  
な  
り

花  
の  
形  
は  
さ  
ま  
ま  
な  
り

花  
の  
形  
は  
さ  
ま  
ま  
な  
り

（増補）

（増補）





愚車  
おのひげま

大  
おのひげま

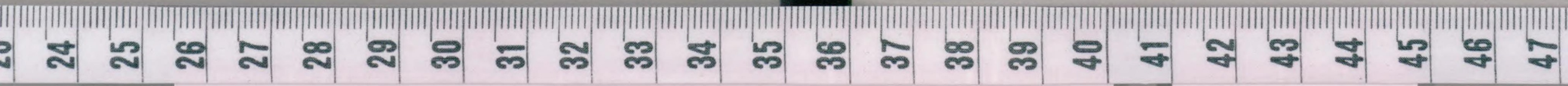


三角草  
み

須溪竹  
すんぎょく

増補  
花壇  
大全

三  
巻





小  
燕  
子  
毛

ちやる  
めの草

あむの夜  
笑ひ花

花の葉  
花

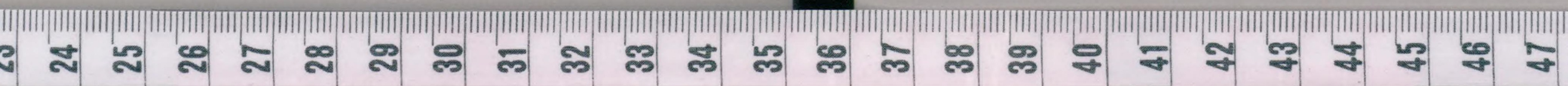


か  
紅  
竹

ま  
狂  
竹

花  
神  
の  
花

花  
神  
の  
花





貝母

延胡索

鬼臼



根端

三拍

補骨脂

三拍







花  
松

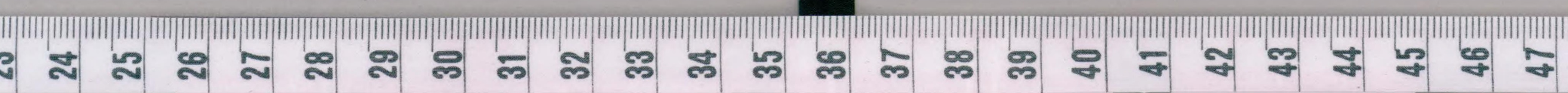
花  
松



○ 春草

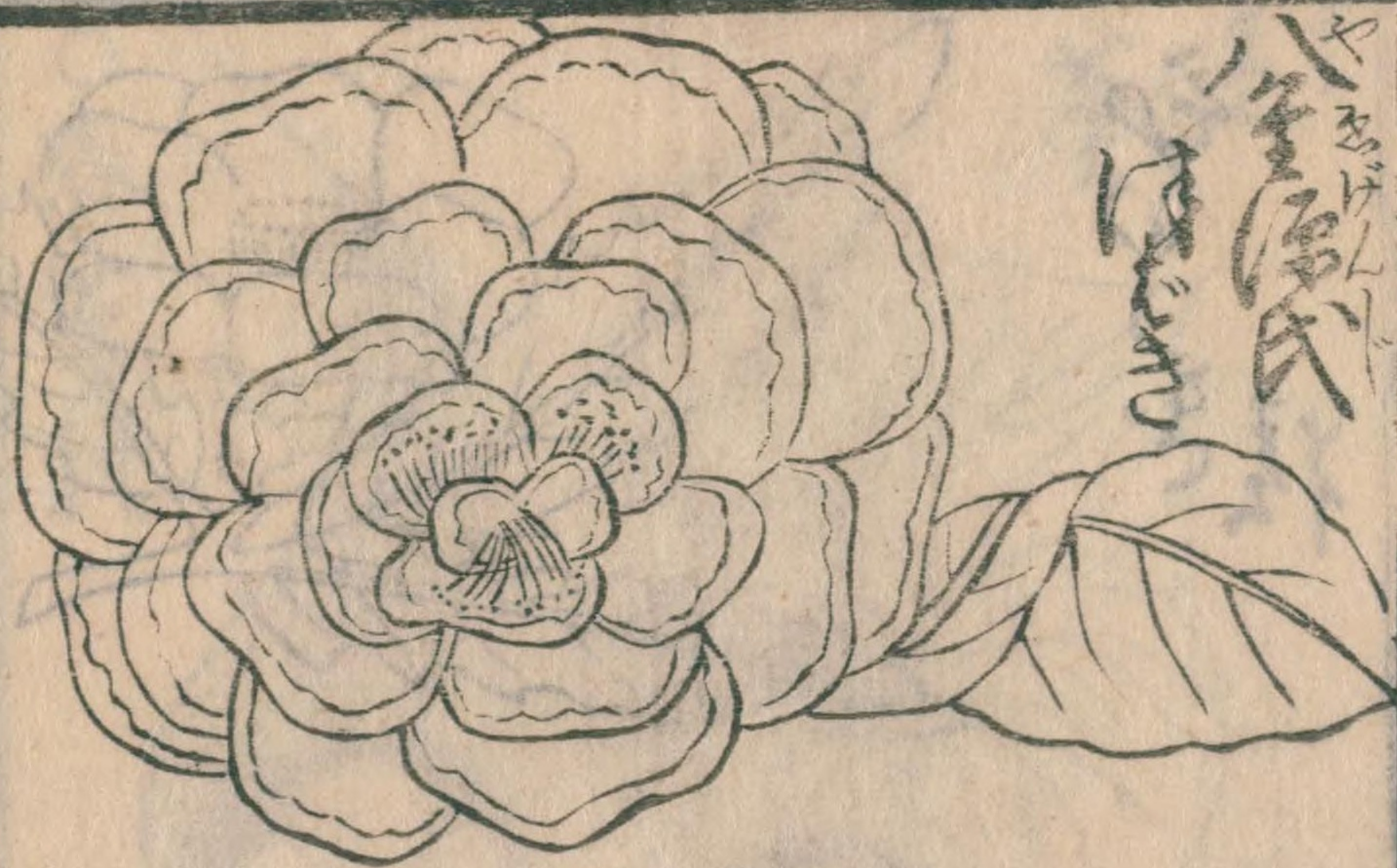
花  
松

花  
松





朝舞  
椿



八重桜  
椿



五子箱  
椿



かぶさくしん椿



かぶさくしん椿



かぶさくしん椿







○増補山菜花記

舞 心形分

袖古菜花 花がこま  
あはれくまもももくして

二 花の白を大物  
うづぶ

裏の心菜花 心まが  
ちまけんくく白りよか

うのみまく様色のどく  
はがまは花のまを屋敷

ハむのくくすおあり

梅の風 心形く二重  
かき子ちまの

白地まおれまの  
くくくくくくくく

白のまままのどく  
まのまのまのまの

ちまのちり又難波津  
のまのちりまのまの

梅まのちり花あは

山菜花 花がこま  
かまのまのまのまの

うくおありまのまの  
のどくくめまのまの

心形く二重  
かまのまのまの

心形く二重  
かまのまのまの

心形く二重  
かまのまのまの

心形く二重  
かまのまのまの

三花記 心形く二重  
かまのまのまの

心の中りまのまの  
まのまのまのまの

玉娘 心形く二重  
かまのまのまの

心形く二重  
かまのまのまの

心形く二重  
かまのまのまの

○山菜花記終



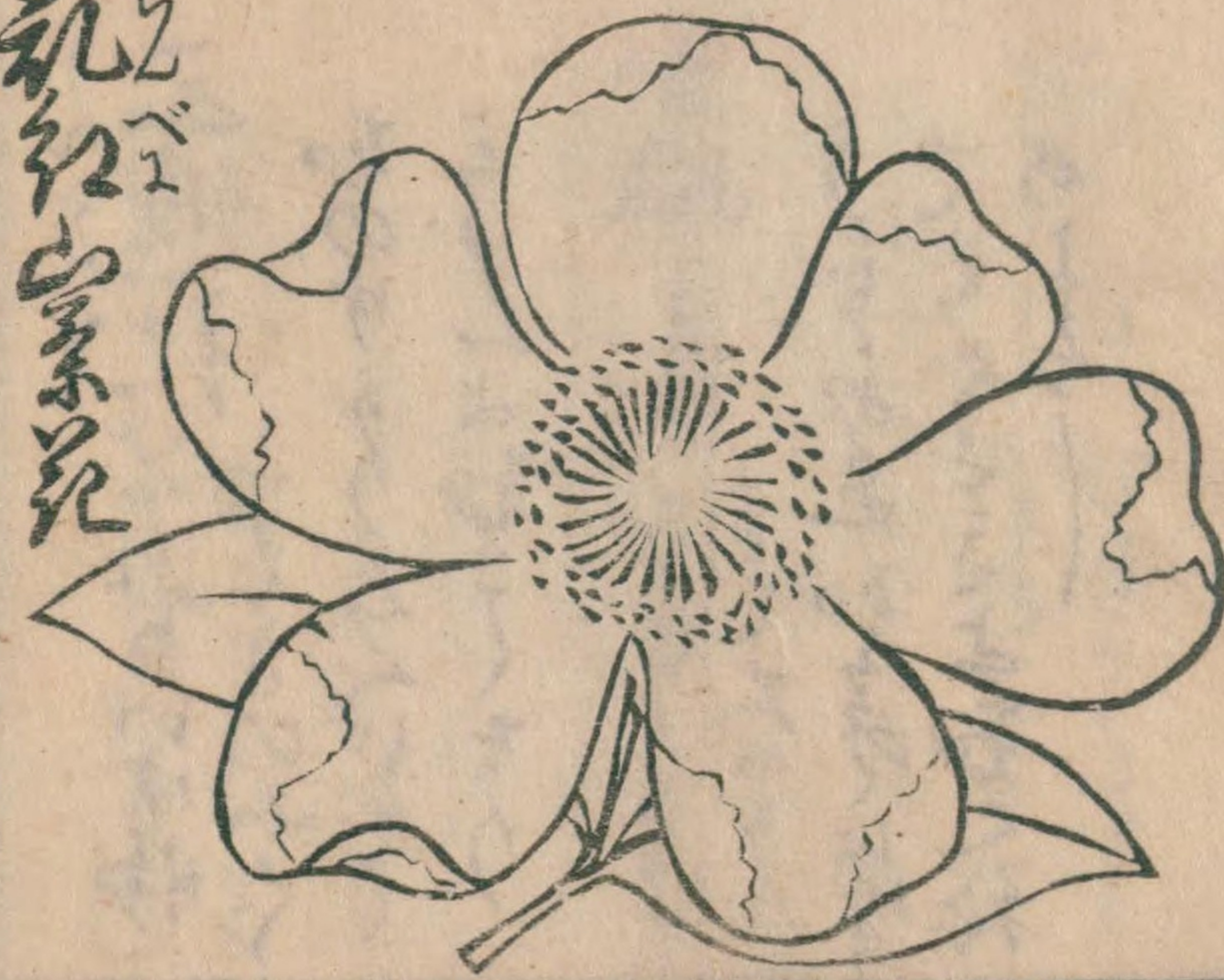
三枝花



三枝花

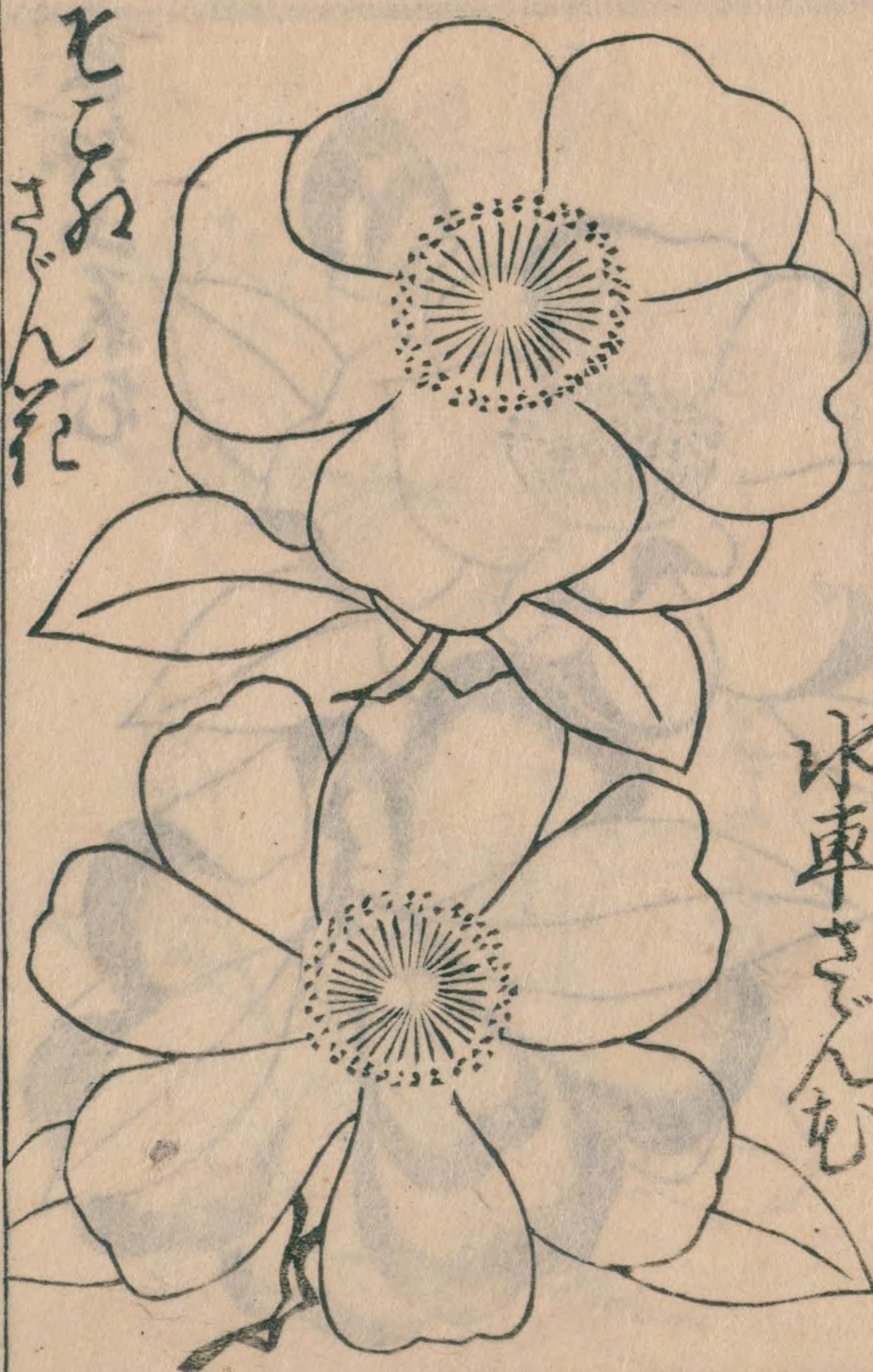


三枝花



三枝花

三枝花



七  
さ  
ん  
花

氷  
車  
さ  
ん  
花



七  
さ  
ん  
花



七  
さ  
ん  
花





鶯の舌

○躑躅の形之図



鶯の舌



裏紅山系花



花  
の  
し  
り



花  
の  
し  
り



花  
の  
し  
り

花  
の  
し  
り



花  
の  
し  
り

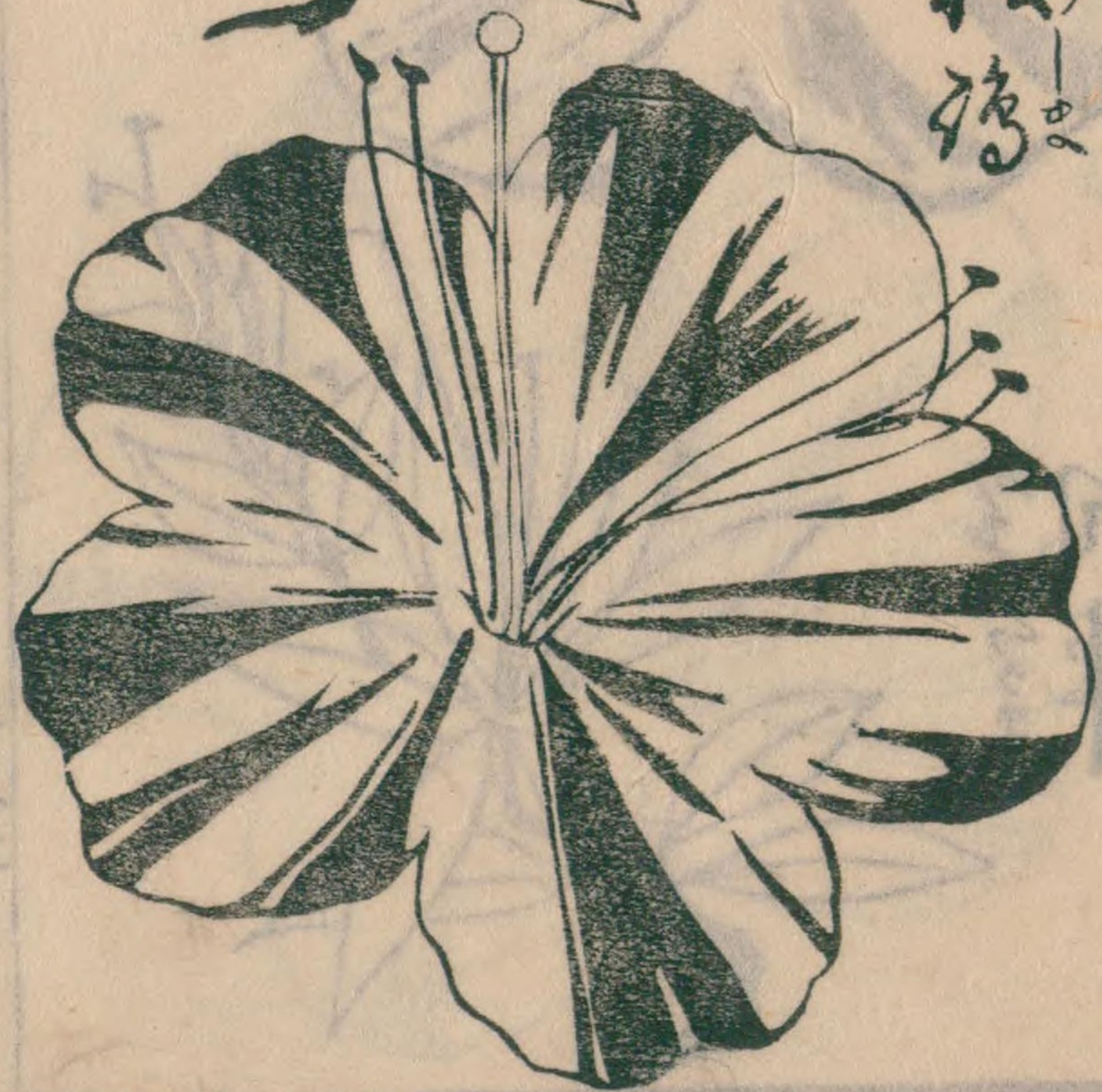




小  
梅

小梅

○さ月花形之圖



△金盞花



果の如くは花の挿し  
こころのよき花を知る  
挿しものありしむ  
又二葉をもあはむ  
是を金盞といふなり

△銀盞花



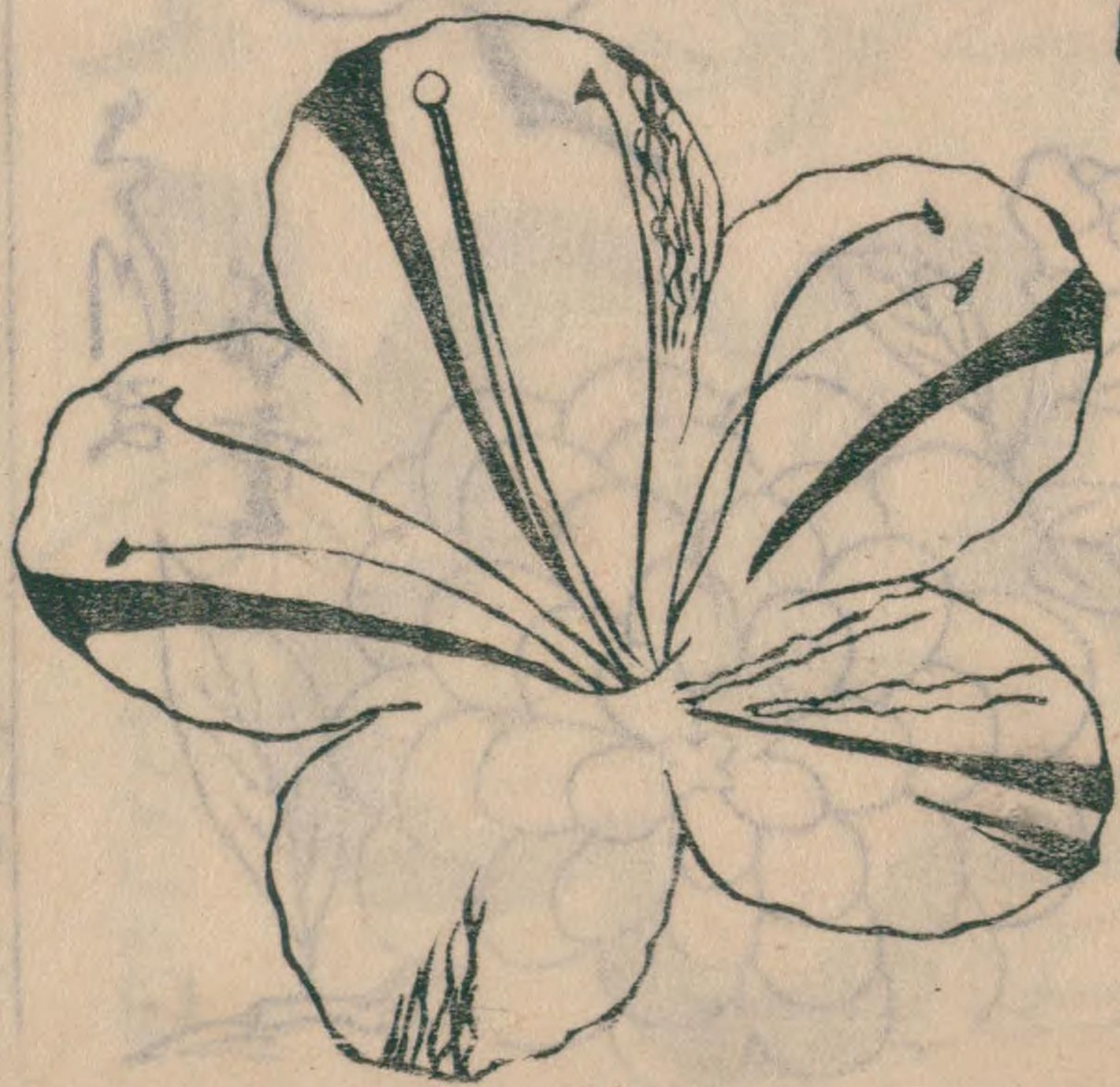
花形金盞に似たりたぐ  
挿しの聲をよかきし  
ぬは銀盞といふなり



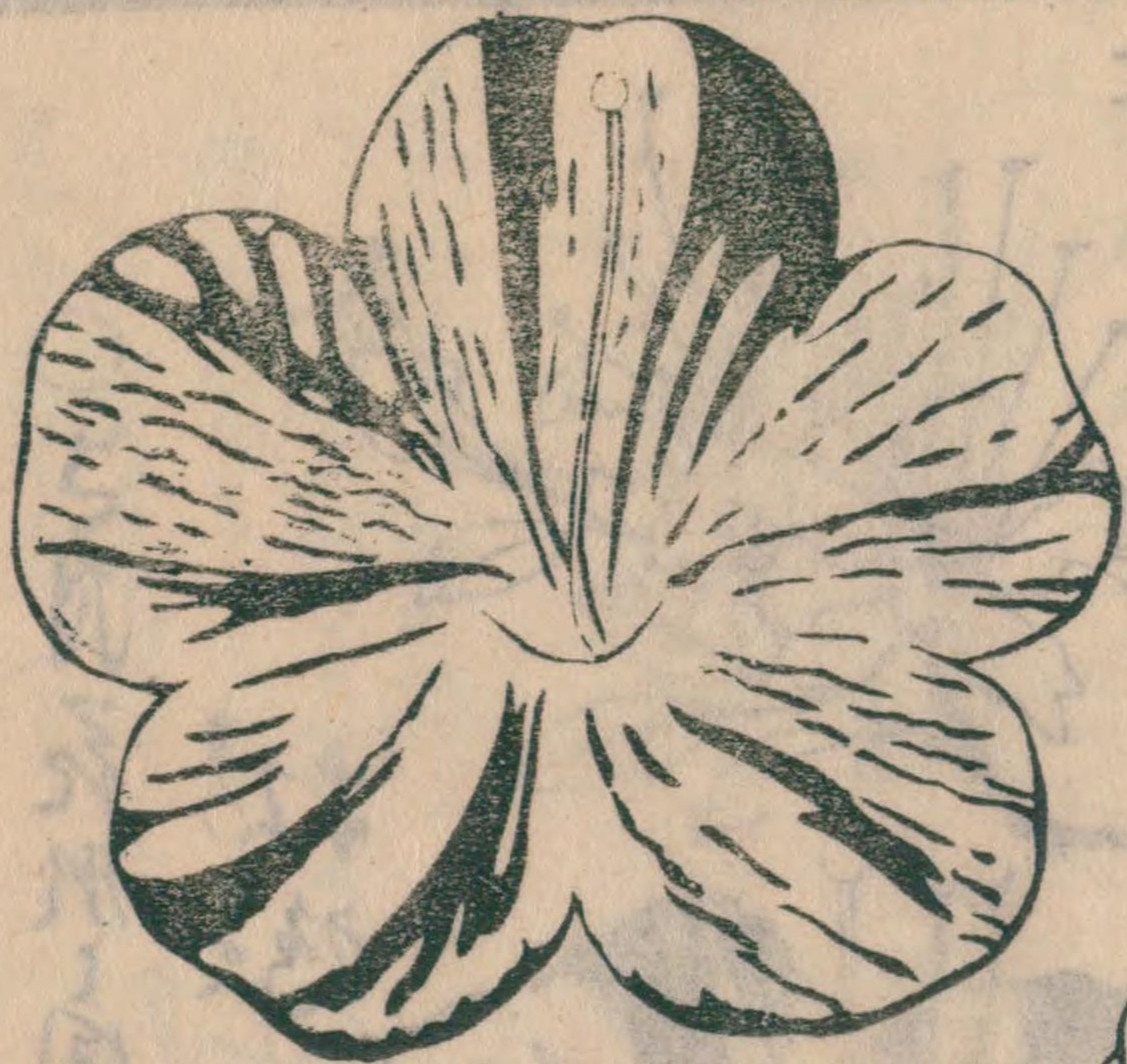
葛城 のづき



嵐山 あしやま



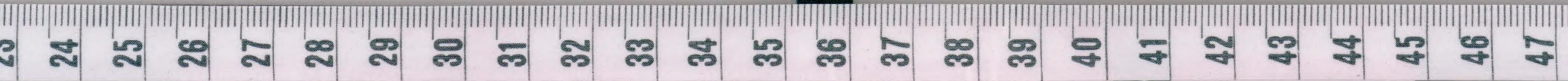
蜀江錦 しゅうかうきん

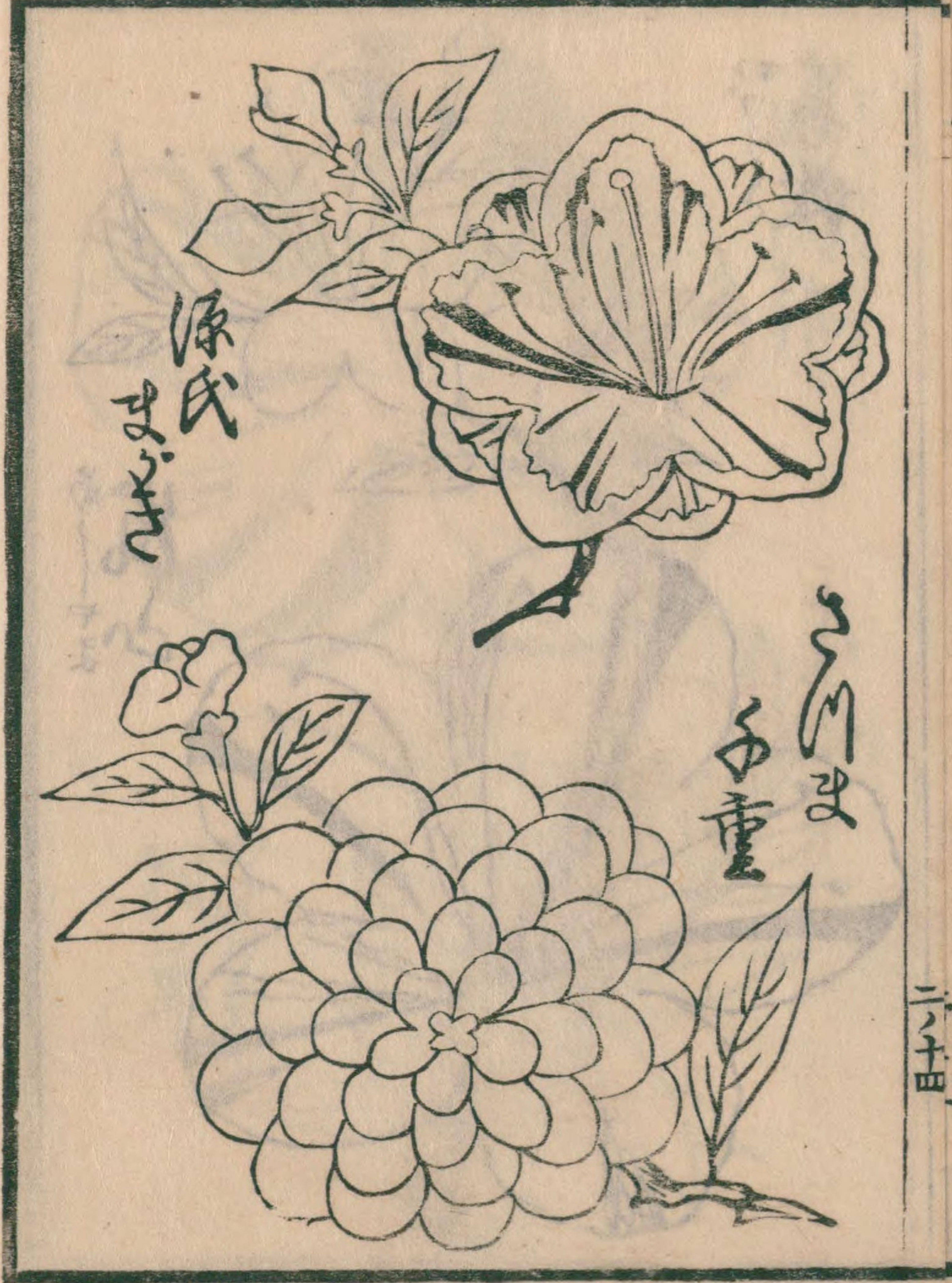


風車 かざぐるま



二ア十三





わさつ 花のうららき  
鈴巻 花のうららき  
こころ 花のうららき  
十條のぼり 花のうららき  
いろあし 花のうららき  
さくさく 花のうららき  
あすろ 花のうららき  
はるだん 花のうららき

○増補花壇 花のうららき

くられ 花のうららき  
隠みの 花のうららき  
てさいの 花のうららき  
あつら 花のうららき  
そのぼり 花のうららき  
はるだん 花のうららき



○つばき

あつら

あつら

あつら

すそ地は家 おせん

白 おせん

古ちのゆき おせん

こは家 おせん

おとぎの箱 おせん

おとぎの箱 おせん

あまのま おせん

あまのま おせん

おとぎの家 おせん

おとぎの家 おせん

あのみ おせん

あのみ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

金 おせん

金 おせん

ひ おせん

ひ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん

おとぎ おせん



つらきうきう

つらきうきう きうきう

けあせ けあせ

あき あき

せいの せいの

あや あや

さう さう

な な

傘 傘

り り

け け

だ だ

あめ あめ

う う

あ あ

う う

あ あ

あ あ

あ あ

び び

う う

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ



白井 しろいし しろいし  
橋河 しろがわ しろがわ  
あやぎらぎら しろぎらぎら  
かきり しろかきり  
しろはら しろはら  
しろぞ しろぞ  
しろん しろん

しろめ車 しろめくるま  
しろり しろり  
しろり しろり  
しろり しろり  
しろり しろり  
しろり しろり  
しろり しろり  
しろり しろり

しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん

しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん  
しろん しろん



は茶うしじしししししししししししし

ちしひげししししししししししし

わかしししししししししししし

せしししししししししししし

めんがんししししししししししし

えしししししししししししし

は茶ししししししししししし

しししししししししししし

ちしししししししししししし

白四季ししししししししし

せんししししししししししし

あんししししししししししし

は茶ししししししししししし

せしししししししししししし

ちしししししししししししし

あんししししししししししし

かししししししししししし

ちししししししししししし

あししししししししししし

さししししししししししし

かししししししししししし

しししししししししししし

わけししししししししししし

いししししししししししし

こししししししししししし

いししししししししししし

わししししししししししし

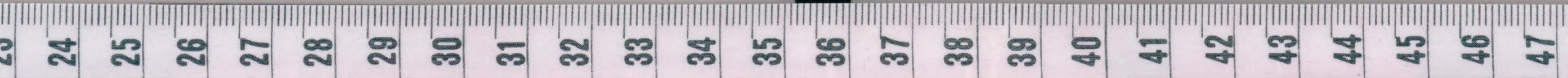
花車ししししししししししし

白中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん

若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん

若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん

若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん  
若中つん





くらば 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜

若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜

すそ 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜

若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜  
若菜山 若菜大つらん 若菜

○なまのこしおとせ中

松浦白地赤くびいりく  
源氏なる白

まさ記相見むい合え

さぶあま白地赤くびいり  
こふド くれあひいり

あぢりまねこあらのまき

も孫くすまふあまびり  
吉野川白地赤くびいり

かうあまくいれあひいり

えか白 あ白くり

あまき白地赤くびいり

いよこれあひいれあひいり  
いりあま

小きり くれあひいり

むきれ くれあひいり

あじ山 白地赤くびいり

おそらく くれあひいり

さうあひ くれあひいり

あし入 くれあひいり

あふれあひいれあひいり

あふれあひいれあひいり

こまぬれあひいり

アまづの中いり

あふれあひいれあひいり

たふさ くれあひいり

あふれあひいれあひいり

あふれあひいれあひいり



いふ事ゆきふりてつえ  
大万紫たまんし これみい 大つまん まん  
万紫 これみい まん やう  
そこ白 これみい まん の  
あうくわ 白地 たに の  
名月 あわ 中 まん  
ちり れ 中 まん

あまの これみい まん  
せんやう これみい せん 中 まん  
これみい これみい まん  
えい これみい まん  
ひろ これみい まん  
な これみい まん  
ゆ これみい まん

おま これみい まん  
こ これみい まん  
百万 あ まん  
あつ これみい まん  
と これみい まん  
あ これみい まん  
あ これみい まん

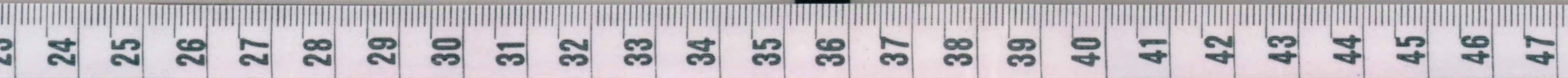
お これみい まん  
あ これみい まん  
あ これみい まん  
あ これみい まん  
あ これみい まん  
あ これみい まん  
あ これみい まん

ひび白あうしちん  
大あがり 白あるとびん  
風車 わりしちん  
こまがり 白あるとびん  
せんく 白あるとびん  
さきぬ さうらちん  
あつたし 白あるとびん

さうらちん  
さけう 白あるとびん  
さくのぬ あつたし  
三日月 白あるとびん  
あつたし 白あるとびん  
おつたし 白あるとびん  
はつたし 白あるとびん

さうらちん  
あつたし 白あるとびん  
さうらちん  
さうらちん  
さうらちん  
さうらちん  
さうらちん

さうらちん  
あつたし 白あるとびん  
さうらちん  
さうらちん  
さうらちん  
さうらちん  
さうらちん



さゆまき わくまき 大足  
ちりめん わく ちりめん  
花うぶ 白 ちりめん  
あし 白 ちりめん  
すん 白 ちりめん  
袖 白 ちりめん  
花 白 ちりめん

とよ 白 ちりめん  
三井寺 白 ちりめん  
とよ 白 ちりめん  
源氏 白 ちりめん  
け 白 ちりめん  
袖 白 ちりめん  
八 白 ちりめん

か 白 ちりめん  
あ 白 ちりめん  
む 白 ちりめん  
は 白 ちりめん  
お 白 ちりめん  
な 白 ちりめん  
ち 白 ちりめん

志 白 ちりめん  
さ 白 ちりめん  
源 白 ちりめん  
う 白 ちりめん  
お 白 ちりめん  
か 白 ちりめん  
甘 白 ちりめん

おはなまきりあたるん

らめん じんせい

花うら 白きあびへ

らんれんぞんれん

人丸 わりくま年の中

あぢまの祢んすけの中

りく さまごころあつん

大あらし ねまいたつん

おまや ねまいたつん

花のまき 白きあびへ

なまは家 じんせい

はつあき 白きあびへ

玉あつ じんせい

いそね ねまいたつん

なまあつ じんせい

せいぢり じんせい

うすゆき じんせい

たつあき じんせい

まなまね じんせい

なまは家 じんせい

おごらまね じんせい

おわら じんせい

花のまき 白きあびへ

まはり じんせい

おまや じんせい

なまは家 じんせい

あぢまの じんせい

いそね じんせい

三十一

三十一



おんあし 白  
ひらきめ 白  
吉地は家 白  
源平 白  
源氏は家 白  
松あも 白  
松源とこの 白

なまごころ  
わづまね  
おのへ  
せい  
大坂  
うす  
おん

源氏にの  
く  
わに  
あに  
え  
わ

白にの  
お  
さ  
大にの  
八

おんあし終

六十一



○はつどのみえ

一 しろく梅 はつどのみえ 一 しろく梅 はつどのみえ 一 しろく梅 はつどのみえ

○さげのこむ

一 ねま さげのこむ 一 ねま さげのこむ 一 ねま さげのこむ

一 ねま さげのこむ 一 ねま さげのこむ 一 ねま さげのこむ

一 ねま さげのこむ 一 ねま さげのこむ 一 ねま さげのこむ

○はつどのみえ

○梅のるひ

冬末 春初

長中  
かろいん かろいん 一 白 かろいん

先ド 先ド 白 先ド 一 白 先ド

白梅 白梅 一 白梅 白梅

白梅 白梅 一 白梅 白梅

念 念 一 念 念

榎方梅 榎方梅 一 榎方梅 榎方梅

あび あび 一 名 あび

名 名 一 名 名

三三三



ふんごうく咲ゆは梅の枯  
おとらぬそとほぐ

えりひくお梅もきを  
おおゆりいほ

とこり 白梅ひくく梅は千  
月ひかきまき木

大梅 身をぬいぬつをたん  
心をあり梅大くして  
あんずのこく

八つと白梅もく

ひめぢら 白ひくく花形梅枝  
の梅はく

未開花をいかに梅はく  
すくある人多く人

冬梅 白ひくくを中より  
を梅はく

産梅 白七八葉をく花さ  
ろんとく実を梅  
とく六梅はくして  
あは

白梅八つとも一へ  
愛宕梅 ありあめ香見梅  
すれり後羽院のけし  
系は実ある好ありなこ  
ひの梅と極は白よりりて  
花実山木は春宮を来りて  
花実たなは梅は死へ梅を  
んとく耐実女一首のあを  
さげしとを  
動あれがはかろく  
かひまの眉はくさくさく  
こく人  
院中感もて梅中へく  
あはるとんこの梅のたより

花梅 白梅はくく梅はく  
さるく時  
。在風吹く白から梅の花  
主ありとて早は早風  
は梅東風吹たりと梅は  
配あのをよとびり  
されはゆめのはみそ人  
つじとくまれしと  
は梅はたなはくさる  
えを  
雑波 白梅はくく梅はく  
えとりのあはく









○桃のしほ木表  
中

西王母 二天やぐにまればなまこ  
まおひたりし桃のしほ木  
けりありたりなるあまな  
春木もよそへてあまな  
おら七月内分なふのまこ  
むさくはあり

あめだう 美しきくもろ  
中歌しそ

一家桃 花形せいりうがれ  
実まよそへてあまな  
ひたう

春木 桃を自とりりうま  
けりありたりなるあまな  
ひたう 美しきくもろ  
あめだう 美しきくもろ  
中歌しそ

大坂桃なる今昔の事  
大坂桃なる今昔の事  
大坂桃なる今昔の事

火桃  
火桃の事  
火桃の事

白桃  
白桃の事  
白桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

源平桃  
源平桃の事  
源平桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

ずま  
ずまの事  
ずまの事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

李  
李の事  
李の事

桃  
桃の事  
桃の事

楊梅  
楊梅の事  
楊梅の事

海棠  
海棠の事  
海棠の事

海棠  
海棠の事  
海棠の事

海棠  
海棠の事  
海棠の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

桃  
桃の事  
桃の事

楊の葉々らと花莖をくまがりて咲とりのしらす  
むらりもろしこいあわりのて

青野の中よんひと山橋のふ  
多ク暖てんよん

あまん ちりてさるる

古今序の考のわさう此

奥筋をえん 本らさうして咲

山のさうくの人ぬが心よるんこ  
のこま人のぬがさう

ゆづの根の心とほく

楊葉地 八重よわくさるる

まりがやう 八重ひとくまろえ

ちやまん 八重いんちりてさる

大よ鞠 八重いんちりてさる

小よ鞠 八重いんちりてさる

あまん ちりてさるる

うしん 八重いんちりてさる

らん 八重いんちりてさる

さうれん 八重いんちりてさる

いん 八重いんちりてさる

まがれん 八重いんちりてさる

ひん 八重いんちりてさる

まがれん 八重いんちりてさる

のひん 八重いんちりてさる

色よりまがれん 八重いんちりてさる

右集端 八重いんちりてさる

丸山 八重いんちりてさる

おびん 八重いんちりてさる

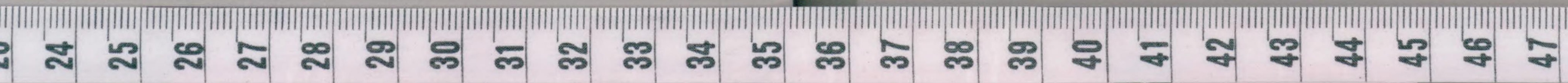
えん 八重いんちりてさる

ちりて 八重いんちりてさる

二命五







国立国会図書館

タイトル『増補花壇大全 6巻』 請求記号 特1-2510

ガラス使用